

世界を能動的に体験するひと夏

アートの現場から

卷之三

青森公立大学国際芸術センター青森では、16日から景観観察研究会（通称・景観研）による「八甲田大学校」を開催する。八甲田のふもとに位置する豊かな自然環境のなかで、芸術と科学の区別なく、自然と人間の関係、共存するための術について考えるプログラムになりそうだ。

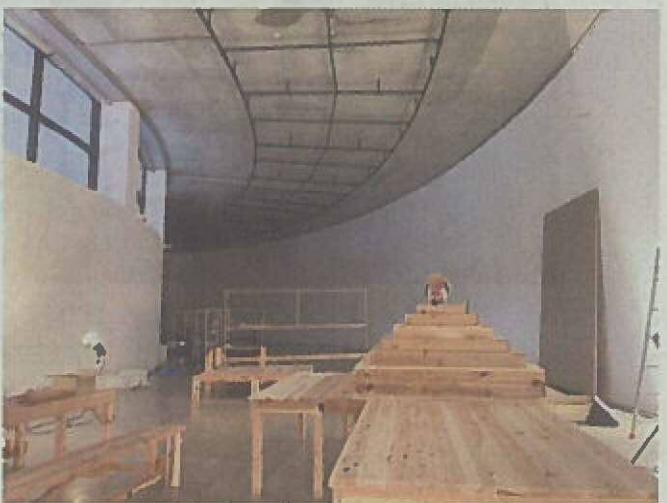
かりだが、景観研として展覽会を行うのは初となる。景観研の呼びかけ人として、今回の「八甲田大学校」でも中心的な役割を担つてゐるのが、作家の山本修路だ。現代美術の活動として酒造・鳩正宗と協働し、地域住民との米作りから日本酒「天祈り」を手掛けていることでも有名な、青森県十和田市と埼玉県を拠点と

にも木工スキルを余すところなく発揮している。

昨年から世界情勢の影響でウッドショックが起り、木材は価格高騰のイメージが強いが、国産の木材を使うことによって日本の豊富な森林資源を有効活用することになり、ひいてはそれが山林の適切な維持や災害防止にもつながっていく。本展で使用している木

知ることのできる展示スペースなど、山本だけでも盛りだくさんの内容だ。

第1章 信息与数据 1



外情勢の影響を受けることによるものである展示スペースなど、山本だけでも盛りだくさんの内容だ。

山本は、日中、もとに木工作業に勤しみ、香)と工房にて工房にて、油絵を描いている。樹木の個性をそれが生息する景観とともに描くのが常だが、今回は八甲田のブナ林を描いてい加え、今年

高騰のイメージによって日本の木材資源を有効活用し、ひいては適切な維持やつながり、ひいては吊している木後は十和田市に運搬される予定

日本は、日中、もとに木工作業に勤しみ、香)

（青森公立大学国際芸術セントラル青森学芸員 慶野結香）

修路)と、寄生虫学や森林生態学を専門に自然をフィールドとする研究者3人(筏井宏実、伊勢武史、大庭ゆりか)からなるグループだ。2018年頃から活動をはじめたが、元々はアーティストと研究者が興味関心を交換するサークルのようなもので、会合を開いたり、学際的な活動をまとめた曲子を作るといった活動を続けてきた。それぞれのジャンルで長年不動の地位を築いているメンバーば

(青森公立大学国際芸術センター青森学芸員 香) ンター青森学芸員 慶野結香)

県立美術館「ミュニティ・ギヤラリー」で行われた「Acc